

注意事項をよくお読みください。

先週の動きと今週の見通し No.636 (2015年8月31日～2015年9月4日)

ポイント

- ◇ 米利上げ見通し、4日の雇用統計にて判断
- ◇ 不安定な値動き続く
- ◇ 原油先物が落ち着きの目安

		先週末値	今週の予想		
短期金利	無担保(翌日物)	0.076 %	→	もみ合い	0.070 ~ 0.100 %
	円TIBOR(3ヶ月)	0.171 %	→	もみ合い	0.170 ~ 0.180 %
長期金利	新発10年債	0.380 %	↗	金利上昇	0.330 ~ 0.400 %
	先物中心限月	147.89 円			147.60 ~ 148.20 円
円/円スワップ	5年	0.23 %	↗	金利上昇	0.20 ~ 0.25 %
	10年	0.57 %			0.53 ~ 0.60 %
米国金利	ドルLIBOR(3ヶ月)	0.329 %	↗	金利上昇	0.32 ~ 0.34 %
	T-Note(10年)	2.181 %	↗	金利上昇	2.00 ~ 2.30 %
株式相場	日経平均	19,136.32 円	↘	下落	17,000 ~ 20,500 円
	NYダウ	16,643.01 ドル	↗	上昇	16,250 ~ 17,000 ドル
為替相場	ドル・円	121.71 円	↗	ドル上昇	118.00 ~ 124.00 円
	ユーロ・ドル	1.1185 ドル	↘	ユーロ下落	1.1000 ~ 1.1500 ドル
	ユーロ・円	136.12 円	↘	ユーロ下落	133.00 ~ 138.00 円

ウィーリー コメント

チーフストラテジスト 高梨 彰

9月に向けて

16-17日 FOMC に向けて予断許さず

中国、唐突な政策が不透明感に繋がる

大荒れとなった8月の相場が終わろうとしています。相場の緊張は小康状態といったところですが、相場が荒れた原因の1つに9月16-17日開催のFOMC(Federal Open Market Committee: 連邦公開市場委員会)も入っているだけに、9月に向けても予断を許さない状況が続くそうです。

相場が変動をきたした理由は主に2つ、中国とアメリカです。中国では経済成長率の低下が顕在化していたものの、株価は年初から上値追いとなっていました。しかし、6月に株価は急落、中国当局が実施した規制も評判が悪く、株安を止めることは出来ませんでした(図表1)。加えて、人民元の切り下げです。中国としては人民元の自由化、ひいては中国に残る資本規制を段階的に無くす過程における1つの過程に過ぎなかったのかもしれませんが、中国景気に疑問符が付く最中だっただけに「中国政府が輸出競争力向上のために講じた苦肉の策では」といった後ろ向きの受け止め方をされてしまいました。株価急落に唐突感のある政策が重なり、中国に対する不信や不透明感に繋がった形です。

アメリカでは、2006年6月以来となる利上げが視野に入り、(以下次頁)

注意事項

*当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とに拘わらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。

*また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

アメリカ、9月利上げが視野に入ると、市場はリスク回避

(前頁より続く)「利上げ = 金融引き締め = リスク資産には不利」との連想から、株価が頭打ちとなっていました。米国内の経済指標に改善がみられると9月利上げが現実味を帯び始め、株価は急落、社債のスプレッド(国債等に対する利回り上乘せ幅)は拡大しました。相場変動の大きさを嫌気したリスク回避の動きです。比較的大人しかったドル円の動きも風雲急を告げるが如く円高が進み、一時116円台前半まで円が買われ米ドルが売られました。

米国内、雇用は改善、物価は上がらず

アメリカの利上げについては、これまでも金融緩和からの転換が示唆される度に、株価急落に代表されるような市場変動率の上昇がみられました。今回も同様です。利上げを嫌う動きには「アメリカが利上げをしたら、世界経済に深刻な影響が出る」との考え方があります。

エネルギー価格下落と、米ドル高が原因

ここには、米国内と世界全体にて2つの対照的な姿を確認することができます。まず、米国内では、アメリカの金融政策は「雇用と物価」が重視されていますが、雇用は改善が示されて来ている一方、物価は目標とする水準よりも低い状態が続いています(図表2)。失業率は金融危機直後に10%まで上昇したものの、その後はほぼ一貫して低下、今年に入ってから5%台前半まで改善がみられました。これに対して物価はFed(米連銀)が目標とする上昇率2%を下回る状態が続いています。Fedのフィッシャー副議長は物価上昇率が低位にある理由としてエネルギー価格下落と、米ドル高を挙げています。しかも、これらは一過性の動きであって、今後物価上昇率は上向いて行くとも述べています。「物価は次第に上昇」との考えは従来から唱えられてきましたが、今日に至っても物価上昇が顕在化するには至っていません。このためFedからの発言に疑問符が付き、そうした懐疑的な見方が相場変調に繋がります。

米独と新興国、対照的な姿

また世界経済全体を見渡しますと、アメリカやドイツ経済は比較的良好な姿となっているのに対して、新興国経済など他の経済圏では景気鈍化から抜け出せない状態が続いています。そのような中でアメリカが利上げを開始すれば、アメリカはよくても、新興国経済は米ドルに対して自国通貨が更に弱くなり、インフレ圧力を懸念しながら景気鈍化に直面するという、スタグフレーションへの不安が強くなります。

「リスク資産価格に上昇余地」

結局、世界経済全体に力強さが戻らない限り、アメリカの利上げに対するリスク回避的な動きも出続けます。そのため、仮にFedが利上げを開始するにしても、その動きは穏やかなものに留まる可能性が高まります。利上げの動きが穏やかであるならば、リスク回避の動きも収まり、株買いなどリスク選好の動きが再び出てきます。そんな訳で9月から年末に掛けての相場想定は「Fedの慎重な姿勢を確かめつつ、リスク資産価格に上昇余地が残る」となります。

物価が上がれば、話は別

また米国内にてインフレ上昇が確かなものとなってきた場合にも、この前提は変わります。Fedが最重視するのは、あくまで米国の「雇用と物価」です。ちなみに物価に関しては欧州でも、そして日本でも話は一緒です。物価上昇率が上がってこなければ、どの中銀も金融緩和を止める訳には行きません。反対に物価が上がれば金融緩和は「出口」へと向かい、リスク資産には正念場がやってきます。「押したら買い」の相場とは異なる段階に入ったようです。

図表1: 中国 上海総合指数推移



出所: Bloomberg, りそな銀行

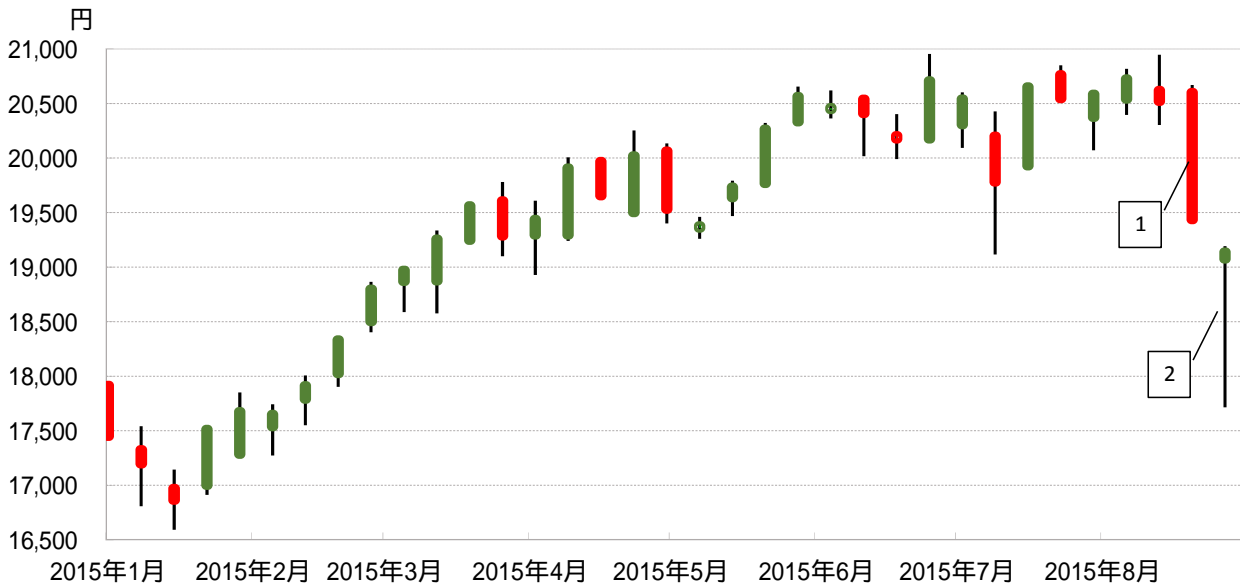
図表2: 米 PCE 価格指数推移



出所: Bloomberg, りそな銀行

今週のひとコマ

図表3: 日経平均株価推移



出所: Bloomberg、りそな銀行

相場急変後のチャートの見方

日経平均、20,000 円割れから
17,700 円付近まで急落

「かつて来た道」と
「自分の持ち値」に敏感

20,000 円台は戻り売りの目処

「かつて来た道」18,000 円割れ
は押し目買い

中間の価格帯では相場は不
規則に動きつつレンジを作る

今月は、世界的な株安の中で、日本株も値幅を伴って下げました。

値下がり前は 20,000 円から 21,000 円の範囲で推移していたものの、[1]にあるように、20,000 円を割れてからは、一気に 19,000 円台前半まで下落しています。

翌週には、18,000 円も割れ一時急落が止まりませんでした。しかし、下げ一巡後は急速に値を戻し、[2]のように再び 19,000 円を窺う動きとなっています。

このように、それまで居なかった価格帯へと急落した場合、その過程にて売買された時間がほとんどありません。特に、18,000-18,500 円にて新たな買いを入れた人は少ないと思われます。

市場参加者は、得てして「かつて来た道」と「自分の持ち値(コスト)」に敏感です。20,000-21,000 円にて推移している際に買いを入れた人にとっては「21,000 円まで戻れば…」との意識が働きます。特に評価損を抱えている向きにとって、自分の持ち値まで相場が戻れば、売りを出したくなるものです。

しかも、同じ価格帯での滞留時間が長いほど、一般的に同じ持ち値を持つ人が増えます。こうして 20,000-21,000 円まで相場が戻った際には、一旦、売り買い交錯となる可能性が高まります。

一方、先週の安値、17,714.30 円は「かつて来た道」としての安値として意識されるところです。「下がったら買い」と考えていた人でも、相場急変時には、なかなか手が出ないものです。しかし、一度みた価格帯であれば、1 回目よりも買いは入れやすくなります。このような形で、18,000 円割れの水準は「押し目買いの目処」として意識されます。

この中間、18,000-20,000 円付近は、直近にて「自分の持ち値」を持つ人が少ない価格帯です。目処として意識する人が少ないため、この価格帯では下げも戻りも一方通行となりがちです。相場急落後に、急落直前まで比較的短期間で戻ることが往々にしてあるのもこのためです。またこの価格帯での売買は新たな「自分の持ち値」を持つ人ばかりとなるため、不規則な値動きが起こりがちです。

こんな感じで、急落後の相場は、急落時の値幅を新たな取引レンジとして意識し、市場心理の改善具合を確かめつつ、次の展開へと備えます。

各マーケット・コメントは 8 月 31 日(月)09:00 現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

外国為替市場

米ドル

予想

ドル円:

ドル円は上昇

118.00 - 124.00 円

先週のドル円は小幅下落。世界的な株安を背景にリスク回避の動きからドル売り・円買いが進み、週初は一時 116 円 18 銭まで円高が進んだ。その後は、中国の利下げやダドリーNY 連銀総裁の利上げに関する発言を受けてドル円は 119 円付近で推移したが、週後半は 4-6 月期 GDP 改定値などを好感してドル円は堅調に推移し 121 円台に乗せた。

今週のドル円は上昇を想定。米経済は堅調であり、9 月利上げの公算が再燃する場合もあるだろう。ただ、中国株安を発端とする世界的な経済の不透明感は一度峠を越したものの、依然警戒が必要であり、ドル円も上下に振られる可能性があるため注意が必要。週末の米雇用統計を受けて、利上げ開始時期を見極める展開となる。(中條)

ユーロ

予想

ユーロ円:

ユーロ円は下落

133.00 - 138.00 円

ユーロドル:

ユーロドルは下落

1.1000 - 1.1500 ドル

先週のユーロ円、ユーロドルは共に下落。世界同時株安を背景にリスク回避姿勢が強まる中、週前半は買い戻しの動きが継続。一方、中国の金融緩和措置を受けてリスク選好が改善すると、ドルや新興国通貨が反発する中、ユーロは売り売りに押される展開となった。株価の動向に振られながら、買いが入る場面もみられたが、週を通じては、下落基調が継続した。

今週のユーロ円、ユーロドルは共に下落を想定。リスク資産の地合いの好転を受けて、ユーロを買い戻す動きがおさまる中、今週もその流れを引き継いで軟調地合いが継続しよう。今週開催されるECB理事会では金融政策は据え置かれ、ドラギ総裁の記者会見でも目立った発言はされない見込み。尚、今週も、リスク資産の値動きが不安定になる場面では再度買い戻しが入る展開も想定され、一方向での下落とはならないだろう。(岩城)

豪ドル・NZドル

予想

豪ドル円:

豪ドル円は下落

84.00 - 89.00 円

NZドル円:

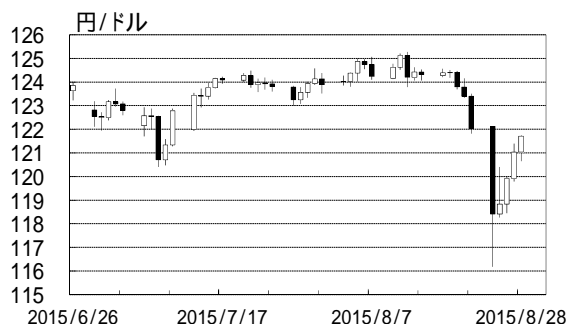
NZドル円は下落

75.50 - 80.00 円

先週の豪ドル円、NZドル円は共に下落。豪ドル円はリスク資産が軒並み値崩れを起こす中、週前半は値幅を伴って下落。一方、中国の金融緩和措置を好感する向きから、その後は下げ渋る展開となり、原油・商品相場の好転を受けて次第に買い戻し優勢となった。NZドル円についても売り一巡後は、リスク選好の改善を背景に下げ幅を縮小させた。

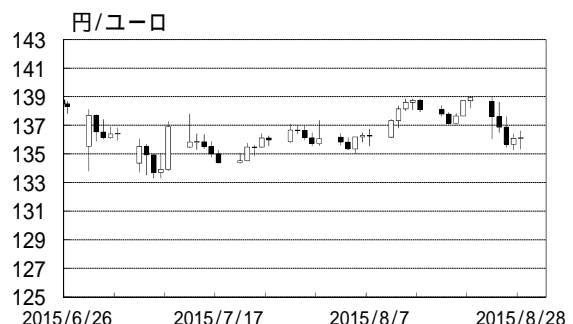
今週の豪ドル円、NZドル円は共に下落を想定。豪ドル円は今週予定されている豪中銀政策決定会合を前に弱含みで推移することが予想され、その場で、中国の景気減速懸念などを背景に追加金融緩和が示唆されれば、安値を付けにくい展開も想定される。その他、4-6月期GDPなども注目される。NZドル円はリスク資産の地合いが改善した場面でも反発力は弱く、買い戻すための決定的な材料を欠く中、弱含みでの推移が続くだろう。(岩城)

図表4: 米ドル円



出所: Bloomberg, りそな銀行

図表5: ユーロ円

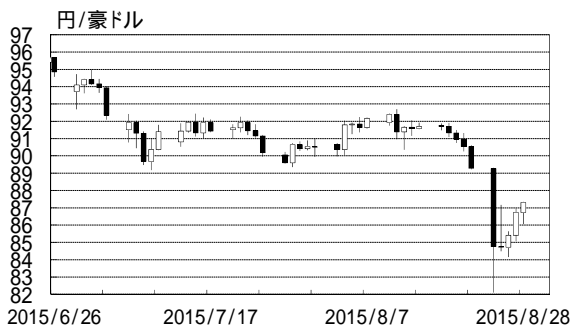


出所: Bloomberg, りそな銀行

各マーケット・コメントは 8 月 31 日(月)09:00 現在

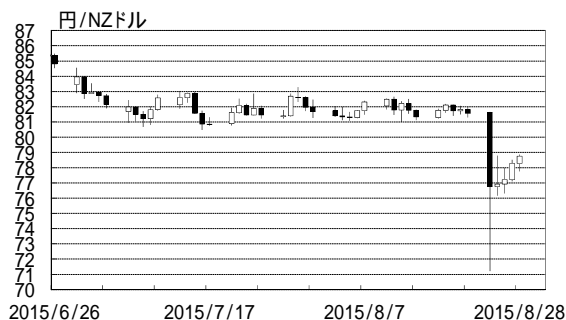
表紙の注意事項をよくお読みください。

図表6: 豪ドル円



出所: Bloomberg、りそな銀行

図表7: NZドル円



出所: Bloomberg、りそな銀行

債券市場

国内

予想

金利は上昇

TIBOR(3M): **0.170 -0.180 %**

長期金利(新発 10 年債):

0.33 -0.40 %

先週の国内債は下落(金利は上昇)。株が値幅を伴って売られる中、週前半の国内債は底堅く推移するも、高値警戒感が燻る中、買い進む動きは限定的。一方、リスク資産の地合いが好転すると、翌週実施される 10 年債入札も意識される中、一旦軟化。ただ、リスク資産の値動きの荒さに対する警戒感が残っており、また超長期債を中心に保有債券の年限を長期化する買いなどが入り、週末を前に下げ幅を縮小させた。

今週の国内債は下落を想定(金利は上昇)。10 年債入札を前に調整売りが入る形で一旦軟化した後は、入札を無難にこなし、その後は米国債の動向に振らされる展開となるだろう。尚、国内株が先週安値をつけた後に値幅を伴って反発しており、利益確定売りが出る場面では、債券には買いを入れる動きも出てこよう。(岩城)

米国

予想

金利は上昇

ドル LIBOR(3M):

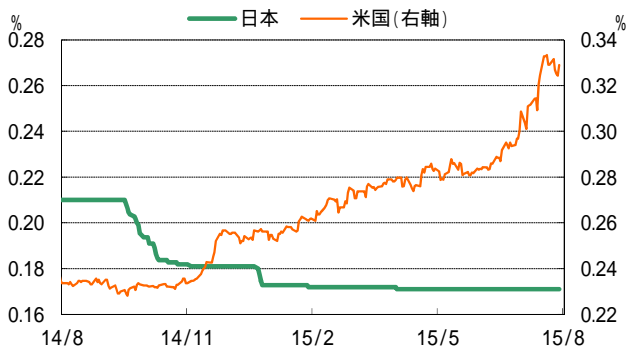
0.32 -0.34 %

T-note(10 年): **2.00 -2.30 %**

先週の米国債は下落(金利は上昇)。世界的な株安を受けてリスク回避姿勢が強まる中、10 年債利回りは 2%を割り込み、一時 1.9%近くまで低下。一方、中国の金融緩和措置を背景にリスク資産の地合いが好転すると、一転して戻り売り優勢。強い米経済指標も売りを誘い、週後半に掛けては軟調地合いが継続した。

今週の米国債は下落を想定(金利は上昇)。リスク資産の地合いの好転を受けて、週前半は軟調地合いとなるだろう。ただ、株や原油の値動きの粗さに対する警戒感が残っており、一方向での金利上昇は考えにくい。また、今週 4 日には 8 月米雇用統計が発表されるが、先週の FRB 高官らの発言を受けて 9 月利上げ観測は後退しており、市場予想を大きく上回る内容とならなければ、売りが強まる展開とはならないだろう。(岩城)

図表8: 日米短期金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

図表9: 日米長期金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

各マーケット・コメントは 8 月 31 日(月)09:00 現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

株式市場

日経平均

予想

日経平均は下落

17,000 - 20,500 円

先週の日経平均は下落。週初より売り相場で全面安の展開。中国株安が嫌気され、投げ売りが出た。火曜日には銀行株などを中心に反発する場面もあったものの、その後は利益確定売りに押され、6日続落。一方、水曜日は中国の利下げを好感して幅広い業種に買いが拡がり、今年最大の570円13銭高となるなど世界経済の警戒感が後退し、上昇。週末まで3日続伸し、19,000円台を回復した。

今週の日経平均は下落を想定。中国株の動向には依然警戒が必要であり、中国や米国など海外要因を受けて、日本株は上下する展開を想定。米国ではISM製造業景況指数やADP雇用統計などの経済指標で強い結果が出ると、9月利上げ観測が再燃し、米株安を受けて日本株も値を下げる可能性がある。週末の米雇用統計前は様子見となろう。(中條)

NYダウ

予想

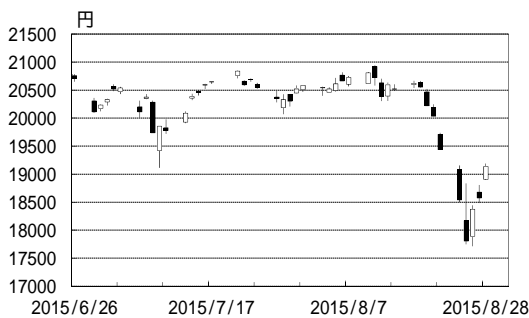
ダウは上昇

16,250 - 17,000 ドル

先週のダウは上昇。世界的に株が値幅を伴って下落する中、ダウは一時15,370ドルまで値を下げる場面もみられたが、売りが一巡すると、中国が政策金利及び預金準備率を引き下げたことを背景にリスク資産の地合いが改善する中、反転。その後は不安定な値動きが継続したが、4-6月期GDP改定値が市場予想を上回って上方修正されたことなどを好感する向きから、前週比プラス圏まで浮上して終了した。

今週のダウは上昇を想定。今週は、米雇用統計やISM製造業景況指数など、米主要経済指標の発表が相次ぐが、市場予想程度に留まれば、米国経済の堅調さを裏付けるものとなり、株価を押し上げる要因となろう。ただ、リスク資産の値動きの粗さに対する警戒感は依然として燻っており、高値圏では利益確定売りに押される展開が想定される。(岩城)

図表10: 日経平均

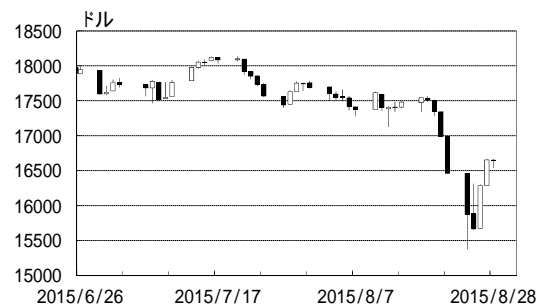


出所: Bloomberg、りそな銀行

中国株

下落、政策金利・預金準備率を引下げ

図表11: NYダウ



出所: Bloomberg、りそな銀行

中国株は下落。連日の株安にも拘わらず、中国政府が株価安定策を打ち出さなかったことが嫌気され、上海総合指数は2014年12月以来の3,000ポイント割れ。中国人民銀行が貸出金利・預金金利をそれぞれ0.25%引下げ、預金準備率も0.5%引き下げると発表したが、反転には至らず。しかし、その後、リスク資産の地合いが改善すると、戻りを試す展開となった。(岩城)

インド株

下落、利下げ期待高まる

インド株は下落。週の序盤は値幅を伴って売られる展開。ただ、原油・商品相場下落がインフレ率の高いインドにとっては追い風となるとの見方からその後下げ幅を縮小。世界的な株売りが一旦収まると、インド中銀への利下げ期待も高まる中、週後半に掛けては買い戻し優勢の展開となった。(岩城)

ブラジル株

上昇、リスク選好の改善を受けて反発

ブラジル株は上昇。週の始めは世界的な株売りの動きが広がる中、原油・商品相場下落を受けて、国営石油会社や資源大手など、株価指数への寄与度の高い銘柄を中心に下落。一方、週後半に掛けては世界的な株売りが一旦収まったことを背景に戻りを試す展開となった。(岩城)

各マーケット・コメントは8月31日(月)09:00現在

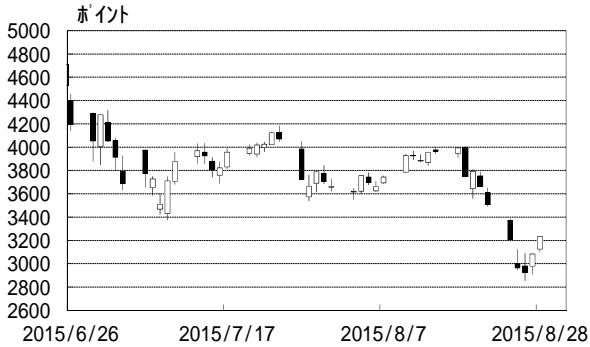
表紙の注意事項をよくお読みください。

ロシア株

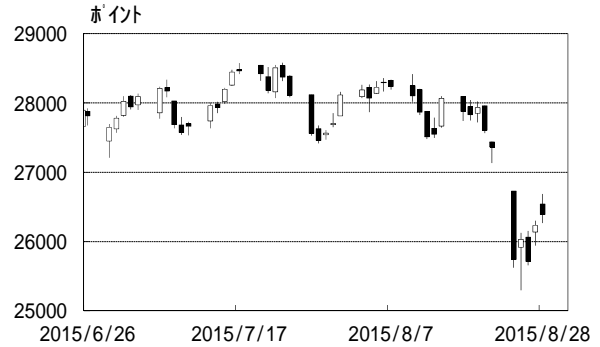
上昇、ルーブルの値動きが
粗い

ロシア株は上昇。世界的な株安や原油・商品相場の下落を背景に、週序盤は値幅を伴って下落。通貨ルーブルの下落も目立った。一方、世界的な株売りの動きが一旦収まり、原油・商品相場も反発すると、週後半に掛けては銀行大手や天然ガス大手などを中心に戻り歩調を強めた。(岩城)

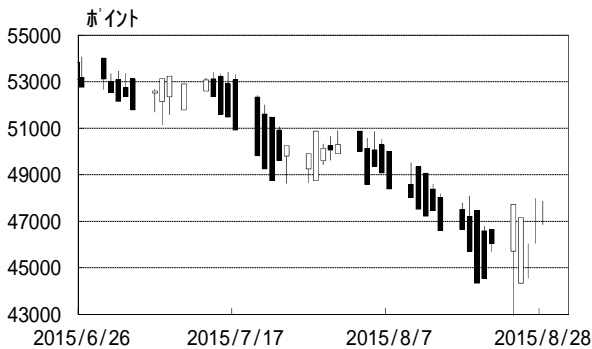
図表12: 中国上海総合指数



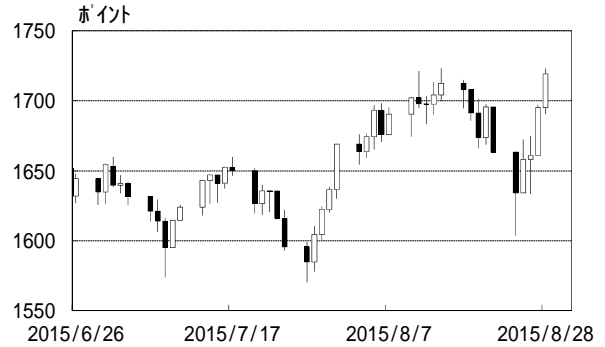
図表13: ムンバイ SENSEX 指数



図表14: ブラジル BOVESPA 指数



図表15: ロシア MICEX 指数



図表16: WTI 原油先物(期近物)



図表17: NY 金先物(期近物)



出所: Bloomberg、りそな銀行

出所: Bloomberg、りそな銀行

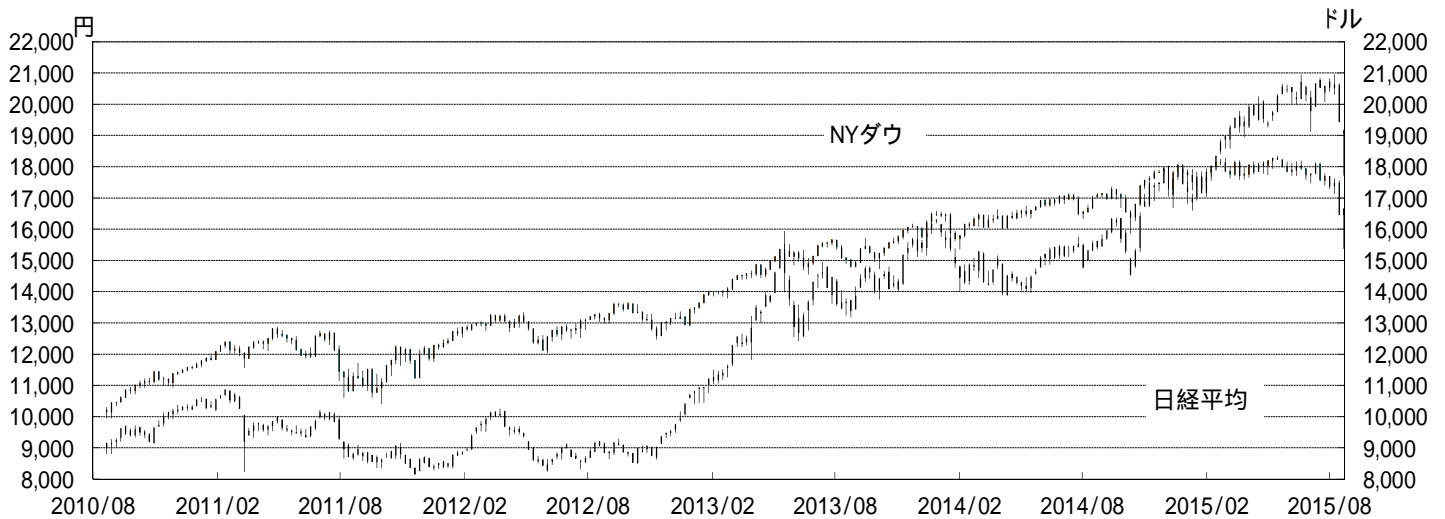
作成 : りそな銀行

総合資金部

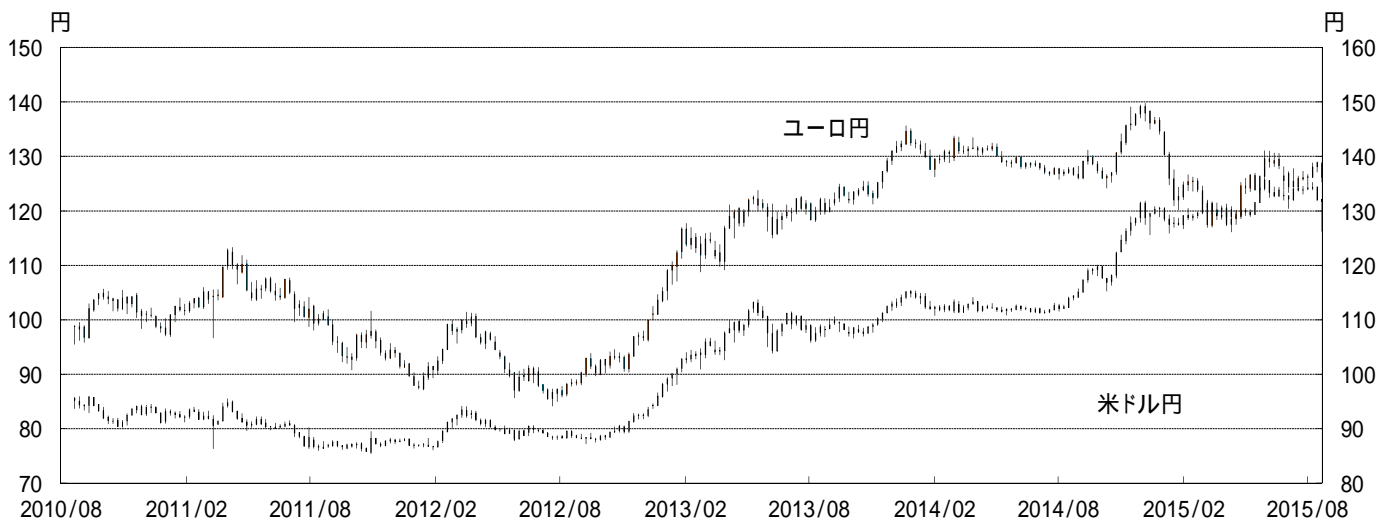
高梨 彰
岩城尚也
中條仁美

過去5年間の相場推

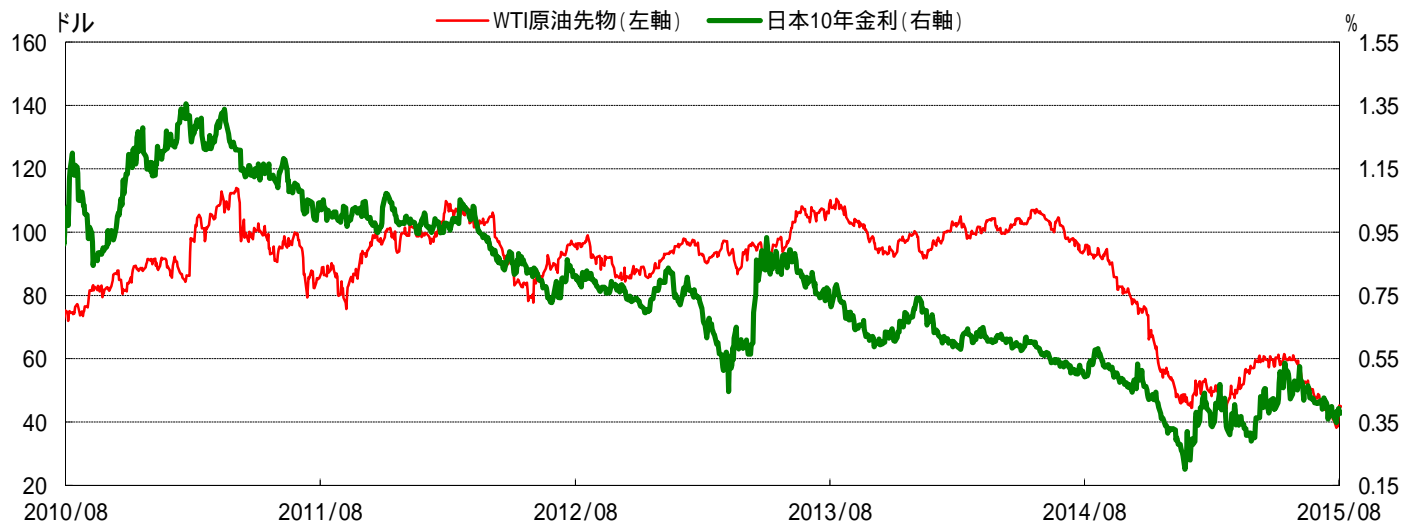
図表17: 日経平均(左軸)とNYダウ(右軸)



図表18: 米ドル円とユーロ円



図表19: WTI原油先物と日本10年金利



出所: Bloomberg、りそな銀行

各マーケット・コメントは8月31日(月)09:00現在

表紙の注意事項をよくお読みください。

マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
8/24(月)		7月シカゴ連銀全米活動指数	
8/25(火)	40年債入札	6月S&Pケースシラー住宅価格指数 7月新築住宅販売 8月リッチモンド連銀製造業景況指数 8月消費者信頼感指数	(独)8月IFO景況指数
8/26(水)		7月耐久財受注	(独)7月小売売上高
8/27(木)	2年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	4-6月期GDP改定値 7月中古住宅販売成約指数	(EU)7月マネーサプライ
8/28(金)	7月CPI 7月家計調査 7月雇用統計 7月商業販売統計	7月個人所得・消費支出	(独)8月CPI
<p>前月比、千人 ■ 非農業部門雇用者数 ■ 3ヶ月移動平均</p> <p>コンセンサス予想、非農業部門雇用者数 +22.0万人 7月実績:+21.5万人</p> <p>出所: Bloomberg, りそな銀行</p>		<p>— PMI製造業 — PMI新規受注 — PMI生産</p> <p>コンセンサス予想、 景況指数 49.7 (7月実績:50.0)</p> <p>出所: Bloomberg, りそな銀行</p>	
8/31(月)	7月鉱工業生産 7月住宅着工件数	8月シカゴ地区製造業PMI	<英> サマーバンクホリデー (EU)8月HICP
9/1(火)	10年債入札 7月毎月勤労統計 法人企業統計	7月建設支出 8月ISM製造業景況感指数	(EU)7月失業率 (豪)準備銀行理事会 (中)8月PMI製造業
9/2(水)	8月マネタリーベース	7月製造業受注 8月ADP民間雇用調査	
9/3(木)	国庫短期証券(3ヶ月) 流動性供給入札	7月貿易収支 8月ISM非製造業景況感指数	(EU)ECB定例理事会 (EU)7月小売売上高 (豪)7月小売売上高 (豪)7月貿易収支
9/4(金)		8月雇用統計	(独)7月製造業受注 (EU)4-6月期四半期GDP
9/5(土)			<印> クリシュナ神誕生日
9/7(月)	7月景気動向指数	<労働感謝の日>	<ブラジル> 独立記念日 (中)8月貿易統計 (独)7月鉱工業生産 (独)7月貿易収支
9/8(火)	8月景気ウォッチャー調査 30年債入札 4-6月期GDP2次速報値 7月国際収支 8月貸出・預金動向 国庫短期証券(6ヶ月)	7月消費者信用残高	
9/9(水)	8月マネーストック 8月消費動向調査		(中)8月CPI (英)7月鉱工業生産・製造業生産 (英)BOE金融政策委員会(-10日)
9/10(木)	7月機械受注 5年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	7月卸売在庫 8月輸入物価指数	(NZ)準備銀行理事会 (豪)8月失業率
9/11(金)	法人企業景気予測調査	8月財政収支	
9/12(土)			(中)8月鉱工業生産 (中)8月小売売上高 (中)8月固定資産投資 (EU)7月鉱工業生産
9/14(月)	日銀金融政策決定会合(15日) 7月第3次産業活動指数		
9/15(火)	黒田日銀総裁定例会見	8月鉱工業生産 8月小売売上高 7月企業在庫 9月NY連銀製造業景況指数	(独)9月ZEW景気期待指数 (英)8月CPI
9/16(水)	20年債入札 国庫短期証券(1年) 日銀金融経済月報	8月CPI FOMC(-17日) 7月対米証券投資	(EU)8月CPI (英)8月失業率
9/17(木)	8月貿易統計 国庫短期証券(3ヶ月) 資金循環統計	8月住宅着工 9月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
9/18(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨(8/6-7開催分)	8月景気先行指数	

表紙の注意事項をよくお読みください。

市場相場動向 (8/24~8/28)

		8/24(月)	8/25(火)	8/26(水)	8/27(木)	8/28(金)		
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	0.076	0.076	0.080	0.076	0.076	
	日本円TIBOR	3ヵ月	0.17091	0.17091	0.17091	0.17091	0.17091	
		6ヵ月	0.25727	0.25727	0.25727	0.25727	0.25727	
	円短期金利先物	15/3限	99.850	99.850	99.845	99.850	99.855	
	利付2年国債	新発債	0.000	0.000	0.003	0.005	0.005	
	利付5年国債	新発債	0.065	0.070	0.070	0.075	0.070	
	利付10年国債	新発債	0.345	0.370	0.370	0.385	0.380	
	利付20年国債	新発債	1.115	1.135	1.135	1.155	1.140	
	債券先物	15/9限	148.09	147.94	147.97	147.84	147.89	
	円/円スワップ	2年	0.13125	0.12875	0.12750	0.12750	0.12500	
5年		0.21625	0.22750	0.22750	0.23500	0.23000		
10年		0.53000	0.55125	0.55750	0.57500	0.56875		
20年		1.15000	1.16625	1.17750	1.20000	1.19250		
海外金利	米金利	FFレート	0.14	0.07	0.12	0.11	0.14	
		TB(3ヵ月)	0.015	0.051	0.051	0.051	0.051	
		T-NOTE(10年債)	2.003	2.071	2.175	2.184	2.181	
	LIBOR	日本円(3ヵ月)	0.08786	0.08786	0.08714	0.09071	0.08929	
		米ドル(3ヵ月)	0.33160	0.32700	0.32520	0.32440	0.32900	
		ユーロ(3ヵ月)	(0.03000)	(0.02786)	(0.02857)	(0.02929)	(0.03000)	
		英ポンド(3ヵ月)	0.58563	0.58438	0.58688	0.58688	0.58688	
		スイスフラン(3ヵ月)	(0.72700)	(0.72800)	(0.72700)	(0.72400)	(0.72400)	
豪ドル(3ヵ月)	2.11000	2.12000	2.12000	2.12000	2.13000			
NZドル(3ヵ月)	2.92500	2.91500	2.91500	2.91500	2.90500			
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	121.79	118.88	119.09	120.07	121.15	
		ユーロ・円(仲値)	138.66	137.72	137.19	136.22	136.17	
		豪ドル・円(仲値)	88.42	85.53	84.91	85.61	87.11	
		NZドル・円(仲値)	80.69	77.03	77.17	77.57	78.75	
		ドル・円(15:30時点)	121.18	119.10	119.60	119.92	121.17	
		ユーロ・円(15:30時点)	138.59	137.76	137.41	136.07	136.35	
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.1437	1.1567	1.1489	1.1347	1.1253	
		ドル円直先スプレッド(3ヵ月、銭/ドル)	d 17.6	d 17.6	d 17.5	d 16.3	d 16.4	
	NY	ドル・円	118.41	118.83	119.92	121.03	121.71	
		ユーロ・ドル	1.1619	1.1517	1.1314	1.1246	1.1185	
		英ポンド・ドル	1.5776	1.5687	1.5463	1.5403	1.5391	
		スイスフラン・ドル	0.9303	0.9392	0.9548	0.9663	0.9637	
	株式	東京	日経平均(225種/円)	18540.68	17806.70	18376.83	18574.44	19136.32
			東証株価指数(TOPIX)	1480.87	1432.65	1478.97	1500.41	1549.80
日経ジャスダック指数			2457.02	2389.05	2469.20	2518.13	2568.40	
東証マザーズ指数			739.46	720.03	772.25	787.84	811.56	
東証1部売買高(百万株)			3949.33	4740.04	3447.39	2820.17	2959.77	
海外		NYダウ(ドル)	15871.35	15666.44	16285.51	16654.77	16643.01	
		ナスダック総合指数	4526.25	4506.49	4697.54	4812.71	4828.33	
		中国上海総合指数	3209.91	2964.97	2927.29	3083.59	3232.35	
		SENSEX(インド)	25741.56	26032.38	25714.66	26231.19	26392.38	
		ブラジルボベスパ指数	44336.47	44544.86	46038.08	47715.27	47153.87	
MICEX指数(ロシア/ドル建)	1634.14	1658.13	1660.95	1695.22	1719.16			
商品	金(NY先物、期近)(ドル)	1153.40	1138.20	1124.60	1122.40	1133.50		
	原油(WTI先物、期近)(ドル)	38.24	39.31	38.60	42.56	45.22		
	CRB先物指数	186.22	187.66	185.28	192.63	197.10		

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください